

これまでの意見交換会等における主な意見

1 第1回福井県長期ビジョン推進懇話会

○子育て関連

- ・他県と比較しても、出産・医療や子育てにおいて福井県は手厚いサポートを受けることができていると感じている。
- ・合計特殊出生率が高い県であり、「子育てだったら福井」ということをもっとアピールしてほしい。
- ・子どもが自然の中で生きる力を育み、様々な体験をすることができる場が福井県にあるため、それを活かし、外に発信していけると、差別化が図れるのではないかと。
- ・全天候型の遊び場など、子育て支援の政策が手厚く助かるという声がある一方で、使いにくいという声もあるので、保護者からの声を聞いて工夫していただきたい。
- ・福井は割と子育てに寛容な地域であるが、小さい子に冷たい目を向ける人もいる。社会全体として子育てを応援していくという雰囲気を作り、未来に希望が持てる社会になるとよいのではないかと。
- ・育児休暇や時短勤務なども徐々に広がっているが、職種によって取りにくい場面もあるので、みんなが取れるような形になるとよいのではないかと。
- ・保育者の質と量の確保が必要であるが、保育者の仕事へのマイナスのイメージが先行していることに危機感を感じる。
- ・ここ5年ほどで父親の子育てへの参加率が上がり、当たり前になってきていると感じる。
- ・女性が進学などで外に出て行っても、福井に帰ってきたいと思ってもらえることが大事であり、未来への種まきをしていく時期だと思う。そのためには、大人がどういう姿を見せ、言葉をかけていくかが大事であり、福井には何も無いと言うのではなく、楽しんでいる父、母の姿を見せたり、それを見守るシニアの方々がいるという社会が成り立っていくとよいのではないかと。

○多様な人材の活躍関係

- ・男性がいったん県外に出ると、一人暮らしにより家事力、家庭で活躍できる力を高めることができるため、Iターンだけでなく、Uターンにも力を入れていくとよいのではないかと。
- ・女性活躍の土台は男性の家庭進出であるため、男性が家事を学ぶ機会を創出していくことが重要ではないかと。
- ・男性を支援するという企業は全国的に珍しいが、まだないものを育てていく土壌ができるかとよいのではないかと。
- ・女性が活躍し、男女共同参画の社会を作るために、男性の家事・育児参加のための講座や子どもの教育などに力を入れているが、今後、企業との連携を強化することも必要。
- ・女性が決断の場に参画できることが大切であるが、県外の方々からの刺激は良いので、県外との交流も大事ではないかと。
- ・自由な発想でものを作り、こんなに地元が楽しいのだということを伝えるという意味で、女

性起業家はおもしろい切り口であると思う。新幹線新時代を迎えたこの時こそ、女性の発想でそういう動きを作っていけたらおもしろい。

- ・とんがった人が新しいアイデアを出す。とんがった人を育て、受け入れていく多様性も必要ではないか。
- ・労働力不足が福祉分野でも喫緊の課題であり、長く福井に住む外国人材をこれからも増やしていくことが重要ではないか。
- ・技能実習生など外国人が増えているが、福井県では車がないと生活ができない。しかし、外国人の多くは運転免許を持っておらず、日本語が堪能でない方だと自動車学校に行くことができないため、自動車学校等の多言語対応も必要ではないか。
- ・外国人住民が長く、楽しく住むことができるよう、外国にルーツを持つ子どもとその子どもの保護者への支援を行うべきはないか。
- ・日本と外国では学校の入学方法や卒業方法が全く違うので、学校に入る前の講座などの支援が必要。

○教育関連

- ・義務教育において、子どもの特性・特技を生かし、手に職を付ける農業、工業、デザイン系など、個性を伸ばそうとする教育がまだ十分ではないと感じる。
- ・どの業界でも専門職資格をもつ技術職が足りず困っているが、義務教育の段階で改善できる点があるのではないか。
- ・教員の働き方改革は進んでいるが、部活動や日常の業務に追われて業務改善ができていない部分もあるのではないか。
- ・農業や林業が大事な産業であるということが中学生やその保護者に伝わっていないため、入学してくる生徒が少ないことが課題。
- ・県内の大学でやりたいことをできる学部がないのか、県外大学に出ていく生徒がいる。
- ・生涯学習のようなことを全世代でできるようになるとよいのではないか。
- ・自分自身で気が付いていない個性に他人が気づき認めるための教育が全世代でできるとよいのではないか。

○産業、技術、労働関連

- ・観光は地域とつながっていかなくてはいけないが、地元の人に良いと思ってもらうことに課題がある。チャレンジに対する理解もまだ不十分だと感じる。
- ・事業は計画通りにいかず、浮き沈みがある。チャレンジの立ち上がりの部分だけを応援するのではなく、その先に失敗もしながら良くなっていくという部分を評価、応援することが大事ではないか。
- ・地元で働きたい若者の受け皿になるよう、チャレンジに対する投資を呼び込めるとよい。
- ・いちほまれは知名度・認知度が上がってきているが、全国との競争の中で、価格が上がるころまでは至っていないため、しっかりと認知度を上げ、ブランド米に育てていくことが必要。
- ・福井でとれたものを福井で食し、お金を巡回させ、外貨を稼ぐという取組みを進めていかなくてはならないと思う。

- ・創業相談に来る方の4割が女性であり、積極的にサポートしていくべき。経験値のあるシニアの方々とのマッチングができるとういのではないか。
- ・新たな成長エンジンの創造による経済の好循環のために、北陸新幹線沿線地域の産業の連携を強化していくべきではないか。
- ・ものづくりは廃棄物が多いため、福井だからこそ小さく循環させ、環境共生・資源循環でつなげていくべきではないか。
- ・新幹線の開業効果を継続することが重要であるが、人材不足が課題。
- ・この先、国内の旅行マーケットが一気に縮んでいく可能性があるため、インバウンドの観光をいかに取り込んでいくかが重要。
- ・観光はあくまでツールであり、色々なところとタッグを組んで連携していくとういのではないか。
- ・新幹線が来て盛り上がっているように見えるが、逆に、人が出てしまったり、県外の事業者に頼ることで資本が県外に流出したりするという懸念もある。
- ・北陸新幹線の延伸はチャンスであるが、駅でタクシーを呼んでも来ないなど、福井に来た後の公共交通機関がうまくいっているか疑問に感じることもある。
- ・人口減少に打ち勝つために、小さい県であることを活かして、先進県としてDXを一気に広げるとよいのではないか。

○文化、スポーツ

- ・県の政策の中で文化が重要視されるようになってきており、非常に望ましい変化であると感じている。
- ・ブランド戦略でも「千年文化」がキーワードになるように、文化は地域の歴史の積み重ね、固有の魅力であり、価値の源泉としての文化が打ち出されている。寛容性を作り出すのも文化芸術であり、創造性を育み、多様性を受け入れる基盤になるもの。
- ・文化事業が目に見える形で盛んになってきており、アーティスト・イン・レジデンスのような事業も増えている。アーティストが好む地域は、関係人口が増え、定住にもつながるオープンな地域になっていくため、そのような事業がもっと盛んになってくるとよいのではないか。
- ・昨年度、文化振興プランが策定されたので、それを着実に実行することが非常に重要であり、これまでにない発想を生み出す人材を作っていくためにも、文化、アートに触れることが大切。
- ・シビックプライドをいかに作り上げ、QOLをいかに向上していくかが重要であり、スポーツにはその可能性がある。

○医療、福祉

- ・今後の福祉は、保健・医療だけでなく、就労、教育、住まいなど、あらゆる分野と連携した包括的な支援体制が必要。
- ・物価高騰や人材不足により福祉事業所は厳しい経営環境におかれているため、財政支援等の総合的な対策が必要。

○その他

- ・子育て、ビジネス、福祉など様々な領域で、リソース、コストを共通化できるところがたくさんある。ノウハウやお金、機械などを共有していくことが大事。
- ・地元の人間を充実させるという視点を忘れず、福井県民が主人公で、その充実感、達成感が味わえる長期ビジョンを組み立てていただきたい。
- ・観光入込客数という量の目標値だけでなく、質的な目標値もあってよいのではないか。例えば、観光消費額、あるいは県民が幸せになる観光といったことの数値化ができないか。
- ・県民の幸せのベースとして、安心安全が重要であると思うので、ビジョンにはそのような数値目標も入っているとよいのではないか。
- ・福井県のコロナ対策は日本、さらに世界でもトップクラスと言えるが、これは行政、医療機関、県民などステークホルダーがお互いを信頼し、一つになったから。小さい県だからこそできたので、このパワーを活かしていただきたい。
- ・メディアと一緒に正しい知識を伝え合うメディア戦略も必要ではないか。

2 県民への個別ヒアリング

○子育て関連

- ・仕事と育児の両立で悩んでいる働くママにとって、もっと働きやすい環境をつくること大事。
- ・福井が好きで何か貢献したい思いはあるが、子育てと仕事で余裕がない。
- ・子どもの遊び場、特に屋内施設が少ない。
- ・敦賀では不妊治療を専門にしている病院はなく、上の子を育てながら仕事もして2人目の不妊治療のために市外へ通うというのはかなり難しい。
- ・嶺南には34週以降の赤ちゃんしか見れる病院がなく、手続きなどを経て県立病院などに到着するには相当な時間を要するが、その間に赤ちゃんが出てきてしまったら助からないかもしれない。命を救うための病院設備の充実も必要。
- ・高校卒業時は「絶対に福井からでよう」と考えていましたが、今は本気で住みやすい街だと思っています。

○多様な人材の活躍関係

- ・空き店舗などをリノベし、安い賃貸料で県内外からやる気のある面白い事業にチャレンジしたい人を集めるべき。
- ・まだまだ精神的にも肉体的にも健康なのに「定年」等で現役を離れた中高年世代等が「次世代」や「地域社会」の為にまだまだ出来ることが一杯あることの「発見」「自覚」が足りないと感じる。「おもしろい」をキーワードに積極的に活動できる「場」づくりがもっとも必要ではないか。
- ・様々な「やりたい」にチャレンジできる場を整えることが重要ではないか。
- ・「挑戦」をする人が増えれば、おもしろい!やワクワクは付いてくる。「挑戦」したい!と考える個人のマインド向上と環境づくり(コスト面や機会)が必要。ふくい独自の文化を大事にしつつ、新たな挑戦のしやすさを確保することが重要ではないか。
- ・福井にも東京の若者と大差ない、アクティブな、面白い、何かを成し遂げようとしている若者は実はたくさんいるので、その挑戦をもっとフォローしてほしい。
- ・全国的にみて福井県の寛容性は高い方ではないと感じるので、新しいことを始めやすい社会にすることが大事。
- ・世代別で「おもしろい人」の特集(YouTube や tiktok、Instagram など誰でもみることが出来るソーシャルメディアにおいて)をすることにより、大人だけではなく、10代の小中高生なども“ビジョンを達成した、福井県のために自分も”という意識にはならないが“自分も何かやりたい、自分だったら”と考えるきっかけになり、それが強いては福井県民全体の底上げや長期ビジョンの達成につながると考える。
- ・若い人はどんどん将来性のある分野で起業するノウハウ、マインドを育てるとともに、資金面などでの支援の体制を充実していくべきではないか。
- ・チャレンジする若者を増やすだけでなく、若者のチャレンジを応援する中年、高年者を増やすべき。

○教育関連

- ・県民自身が自分の住んでいるところに誇りと希望を感じ、磨きをかけるため、「県民」「工夫」「実践をしたくなるようにならなければならない。
- ・福井に生まれ育ったことへの自信と誇りを若い人に持ってもらうことが必要ではないか。
- ・一時的に（大学卒業時など）都会に出たいという気持ちは誰しもあるので止める必要はない。高校生などをターゲットに福井の良さをPRするのではなく、県外に出た福井県出身の方、福井に親戚などゆかりのある方をターゲットに、福井に住むことのメリットを伝えた方が良いのではないか。
- ・学校の先生は厳しいのもいいが、ひとつの価値観で縛りつけるようなことは変えるべき。

○産業、技術、労働関連

（産業）

- ・二次交通がより便利になるようにすべき。
- ・県内にいろんな職種の企業を誘致し、県民の職業選択の幅を広げる必要があるのではないか。
- ・企業も個人経営の店舗も、地元の文化伝統等を活かした、福井のアイデンティティーが至る所に感じられる創意工夫が大事ではないか。
- ・福井県の伝統やこれまでの実績を踏まえ、新しい付加価値を付けるということをいろんな分野でもっとやっていくべき。伝統工芸産業ももっとも工夫の余地があるのではないか。ライフスタイルの変化に合わせて、新しい用途をもっと開発すべき。
- ・宇宙産業へのチャレンジは素晴らしい取り組みだと思う。福井県は明治大正頃から、大変、好奇心旺盛で、何事にも進取の精神で取り組みをしてきたと思う。
- ・地球環境重視の経済を目指したパラダイムの転換をするための経営改革や、起業を推進することが大事ではないか。
- ・経済規模の拡大は考えずに、生活のクオリティを「いかに高めるかを重視した経済に転換すべきではないか。

（労働）

- ・仕事に対する満足度を高めるためには、企業経営者が職員（従業員）のことをいろんな面でもっと考える必要があるのではないか。
- ・長いキャリアの中で、自分の興味の変化に合わせて転職が柔軟にできる職業風土、雇用社会を形成していく必要があるのではないか。
- ・経済界、行政など全ての組織・機関・団体は、年功序列や一斉昇給昇格、新卒の定期採用、終身雇用など古い体質から脱却し、人財の採用、育成、配置、登用などの人事管理手法を刷新する必要があるのではないか。
- ・本人の希望に沿った配置や、やる気のある若手の登用など、一人ひとりのキャリアアップを実現し、やりがいを感じられるようにすべき。
- ・能力が高い人材は有名な大企業や行政機関への就職に限らず、もっと自由な発想で選択肢を拡げ、一人ひとりが職業選択ができる教育、労働環境が求められる。
- ・住民の生活を支える仕事（介護、保育、医療、教育など）に従事している人の能力に見合

った待遇改善が必要ではないか。

- ・世間では運送ばかり取り上げられるが、港湾荷役業者も人手不足による業務量の増加や土日曜日での積み下ろし業務もあり時代と逆行している。大変なのは陸の運送業界だけではなく、海の運送にももっと目をむけるべきではないか。
- ・顧客第一主義の企業が多いなか、People First の考え方を広めることは難しいが、実現できれば素晴らしく、福井県への移住希望者も増えるのではないか。

(技術)

- ・これから人口が減ることを考えると、人口が減っても廻せる仕組みづくりを考えなければならず、そのためには DX 化は避けて通れない。
- ・アナログからデジタルへの転換により、これから新たに生まれてくる産業、衰退・消滅に向かう産業、業種などが出てくるため、戦略的に取り組む必要があるのではないか。

○まちづくり

- ・県民にも来県者にも街歩きが楽しい地域づくりにもっと力を注ぐ必要があるのではないか。
- ・食べ歩きや散策するのが楽しくなる空間にするべき。
- ・街中のライトアップをするとよいのではないか。
- ・福井市中央公園が整備されたことは望ましいので、もっと照明や仕掛けなどを工夫し、魅力ある、人が行きたくなる憩いの空間になるとよい。
- ・店舗の外のテラス席で楽しく飲食できる空間など、安全が確保できる範囲内で、にぎわいづくりを優先すべきではないか。
- ・福井城址のお堀で、季節限定でよいから舟遊びができるとういのではないか。
- ・福井ゆかりの人物の説明案内板などは、観光客へのおもてなしとして、常に磨きをかけるよう努力しないといけない。
- ・福井県内で面白い取り組みが増えているのは感じる。イベントだけでなく、いつでも・だれでも楽しめるものが必要。
- ・「遊び」の視点を持って面白い空間を創れるとういのではないか。
- ・治安、景観の維持と、新幹線開業から年数が経っていくなかでどれだけ来訪者を確保できるか、それらを両立するためのまちづくりをどのように行うかが課題ではないか。
- ・コンパクトシティ計画など、人口減少により縮小していくことを前提に、そのなかで豊かな暮らしを維持していく仕組みづくりが大切ではないか。
- ・福井県のブランドイメージをもっと発信していくべきと考える。新幹線は早く関西まで繋げないといけない。
- ・新幹線開業で福井県は今が一番盛り上がっている。これを機に県外の方は勿論、県内の方にも福井の良さを再確認出来るようなイベントが続くとよいのではないか。

○文化、スポーツ

- ・嶺北と嶺南の時間距離が今までより縮まり、人の往来はもとより、文化芸術の往来も期待したい。
- ・アリーナ構想は、良い面も課題も含めて、もっと開かれた議論を大々的にしてほしい。

○安全・安心

- ・幸せは「安全」と「安心」の上に成り立つので、「水」「エネルギー」「食糧」といった、あたり前と思っている足元を、今一度、見直す必要もあるのではないか。
- ・人が生きるための安心安全なまちづくりこそが、今後の日本社会の中で、世界の中で、差別化のポイントになるのではないか。
- ・不法滞在、不法入国の外国人の増加による犯罪が増加しないか心配。
- ・緑を減らすのではなく、水や、空気が綺麗な福井県を保ってほしい。

○その他

- ・市内の状況の共有化、ひいては効率がまだまだだと感じる。
- ・食べ物や自然、県民性も素晴らしいですが、皆さんとっても謙虚というか「どうせ福井なんか」といった謙遜が多い。
- ・遊んだり買い物したりするところが少なく、県外に遊びに行く回数が多く驚き、不便だなと感じる事が多いが、その不便さがどこもなく心地よく感じることもある。

3 市町別意見交換会

福井坂井地域

○福井市

(1) 福井県の課題

- ・二次交通のバスなど様々なバスが増えており、バスの運転手が不足している。
- ・新幹線開業した今、何が希望になるかという議論が必要
- ・高齢化が進み、担い手不足が問われる中で、高校に農業コースがあるとよい。
- ・嶺南において原子力の代わりの産業を考えなくてはいけない。
- ・関東圏の高齢の方が福井に旅行に行くイメージが描けない。発信も足りていないし、足りていない拠点もある。
- ・福井の企業は男性が強く、女性の管理職と会っても男性が前に出てくる。
- ・県内就職者が少ないのは企業の魅力がないからであり、それは賃金の低さ。
- ・集落で自助する人が減っており、災害時に自助ができない。
- ・自由や楽しさを求めて転出する女性が多い。
- ・魅力的な職種、企業が足りず、県内就職率が低い。
- ・保育園は熱を出したらすぐに迎えに来てくれと言われるため、責任ある仕事ができない。
- ・一人暮らしの除雪は自治会長が担っているが、後継ぎが少なくなっている。
- ・留学生の就職や進学の進路において福井は選択肢が少ない

(2) 望ましい将来像・将来像の実現のために必要なこと

- ・人の取り合いをするのではなく、今住んでいる人がより楽しく、より豊かに暮らせるようにしていくべき。
- ・結婚や子どもを産むことを押し付けるのではなく、結婚したい人、子供を産みたい人を手厚く支援するべき。
- ・新卒採用の獲得を目指すのではなく、福井県の魅力を理解してもらえるUIターン者をターゲットにするべき。
- ・人口減少の中で、パイの取り合いではなく、自分自身にしかできないものが何かという本質的なところを顧みるべき。
- ・働く、学ぶ、遊ぶなど、新しいライフスタイルを、部局・官民が連携して協働型で進めていくべき。
- ・会社、会社員というコンセプトがもう古い。福井発で新しいひな型、モデルを発信できるとよい。
- ・「安心の福井」に向けて、17市町ごとの若い人だけのワークショップを開催するなどして、若い人の意見を聴くべき。
- ・男女共同参画に向けて、思い切ってクオーター制度の導入などを議論すべき。
- ・これから伸びる企業が立地できるよう産業団地を整備すべき。
- ・子どもたちを中心としたまちづくりを行うべき。
- ・移住者が福井の良さを発信してくれるので、移住者の活躍の場を増やしてほしい。
- ・若い人が自由な発想でいろいろな活動ができるよう、温かい目で見守ってほしい。

- ・なぜ福井に移住したのかというプロセスを見て、差別化や発信をしていくべき。
- ・子どもをずっと福井にとどめるよりは、どんどん出て行ってもらいながら、福井との接点の機会を増やしてほしい。
- ・いったん東京に出た人が、子育てなどを機に帰ってきたいと思えるよう、年に数回でも地元との関りがあるとよい。
- ・「若者の流出を止める」というメッセージは若者に対してマイナス。むしろ「若者の転出応援」と言ったうえで、何かかきつけて戻ってくるのを全力でサポートしていくべき。
- ・愛着を高めるために、県民の県内旅行を促すべき。
- ・日本一など、順位で競えるものは、他県がお金をかけるとすぐに抜かれる。密度の観点で政策を考えるべきで、エリアを限定すれば濃くすることができる。
- ・地域の方と外国人が顔の見える、名前のわかる関係になる仕組み作りが大事

丹南地域

○南越前町

(1) 福井県の課題

- ・若い世代が定着しにくいことに加え、希望する就職先がない。
- ・自分の会社は社員ファーストで考えていると経営者が思っているが、社員はそのように感じていないというギャップがある。
- ・男性が多い会社では、育休を取るように声をかけても遠慮して取れない。
- ・地域の繋がりが弱くなってきている。
- ・結婚相談員によるマッチングは、若い人の考えをしっかりと理解していない。
- ・男性社会、もしくは女性社会の中で異性が活躍するということは難しい。
- ・地元にしかりとした給与水準で働ける場が必要
- ・デジタル化やコロナ禍により人と人との繋がりがだんだん薄くなっている。

(2) 望ましい将来像・将来像の実現のために必要なこと

- ・事業承継の意向を支援にうまく導けるとよい。
- ・子どもを増やすために結婚応援が重要
- ・移民の受け入れがどうしても必要になってくる。
- ・結婚年齢が上がっていることもあり、管理職層の女性が子育てをする割合が増えているため、ベビーシッターなどのサービスの拡充や、サービスを利用することに対する意識、アンコンシャス・バイアスの改善が必要
- ・企業の人事ではなく、子育てをしている世代の社員の声を聞き取ってほしい。
- ・男性は退職後、家の中に閉じこもってしまうため、地域で交流できる場作りが大事
- ・電車のタッチパネルなど、技術革新が高齢者にとっては難しい。「日本で一番高齢者にも優しい技術革新」を進めてほしい。
- ・使わない公共施設を高齢者や若者に開放するなど、有効活用すべき。

4 次世代応援意見交換会における主な意見

○未婚女性（20代～30代前半）

（県内に残った理由）

- ・都会へのあこがれはあったが、地域に受け入れてもらえていることで、地元に残るのもよいと思った。
- ・今のまま地元に残るのと、都会に出るのを比較して、精神衛生上、残った方がよいと判断した。

（結婚について）

- ・（結婚願望あり）両親の仲が良く、憧れがある。出産を考えると、30歳までには結婚したいと思っている。
- ・（結婚願望あり）親からも結婚を勧められており、この人どう？と相手を勧められたりもするが、彼氏を紹介すると賛成してもらえず、ストレスになっている。
- ・（結婚願望なし）自由でいたい。結婚は縛られるイメージ。結婚にメリットを感じていない。周りの子供のいる方を見ていて結婚は大変そうだった。

（子育てのイメージ）

- ・ライフステージが1つ上がるイメージ。大変だけどやってみたいと思う。
- ・若いうちでないと産むのも育てるのも体力的に大変そう
- ・当事者にならないと情報が入ってこない。

（仕事と家庭の両立について）

- ・全国を転勤で回るのが夢。いろんな地域のことを知りたい。
- ・理想はパートナーにしっかり稼いでもらって、自分は家のことをして相手に尽くしたい。ただ、生活水準を下げたくない、というのが最優先で、必要であれば自分も必要なだけ働く。

○未婚女性（30代）

（福井にいる(帰ってきた)理由）

- ・県外に住んでいたこともあるが、親孝行をしたくて福井に帰ってきた。
- ・福井にいと友達にたくさん会えるから。親の体調もあって実家に近いところに住んでいる。
- ・自分が学んだ事を福井県に還元したいという思いで福井県に帰ってきた。

（キャリアプラン）

- ・今の職場にずっと勤めているつもりはない。今は生活をするための手段として仕事をしている。
- ・「働きがい」と「生きがい」が一緒の人とそうでない人がいると感じた。自分と一緒にいるのが理想。

(結婚について)

- ・高校生の時に作ったライフプランでは22歳で子どもを産む予定になっていたが、結婚もせず、30代半ばになって結婚願望がなくなった。
- ・結婚しなくても、職場の仲間、友人などに支えられて生きている感覚がある。あえて結婚しなくても望む生き方ができている。
- ・独身が嫌だから結婚、ではなく、独身も楽しいし、楽しみたい。今は自分がしたいことに一杯。一区切りついたら結婚を考えようかと思う。
- ・独身こそ頑張っているという感覚もある。子育て世帯を支えているのは独身者。お子さんの体調や行事で早く帰ることがあるが、そこを独身者が支えている。独身もプライベートはある。
- ・周りを見ていると、子どもがいることでコミュニティが広がっているように感じる。子どももかわいし、うらやましいから結婚はしたい。
- ・結婚しても別れるときは別れるし、結婚しなくても別れない人もいるし、(結婚しているかしていないかは)あまり変わらないように感じる。結婚するとたくさん手続きを取らないといけなし、法的な婚姻という形をとるメリットがあまりなく感じる。
- ・結婚がいいよと周りから聞いたことがあまりない。(その割に)結婚しないのかとやたら聞いてくる。
- ・結婚したいという気持ち、自分の気持ちなのか世間の気持ちなのかが分からなくなる時がある。

(仕事(正規・非正規)について)

- ・持ち帰りの仕事も多く、しんどいが、正規と非正規では収入が違いすぎる。
- ・正規・非正規というよりは、業種や会社によって収入が異なるイメージ。ベンチャー企業に勤めたこともあるが、ベンチャー企業は業績による給料の波が大きい。
- ・経済が低迷している時代を生きてきて、お給料などに希望が持てない。ボーナスとかも信じていない。生活のゆとり、生きがいを置いて優先したくなるほどボーナスがたくさんもらえるわけでもない。

(恋愛について)

- ・最近の若者は出会いが少ないという言い方をよく聞かすが、個人的には出会いがない人はいないと思う。自分が(交際に向けて)動いているかどうかの違いだと思う。
- ・漠然と婚活イベント、とかではなく、趣味などテーマが決まったイベントなので出会う人の方が、好みに近い人が集まる分、可能性があると思う。

○既婚女性（非正規雇用）

（（県外出身者）現在福井に住んでいる経緯）

- ・夫が福井県出身で、夫が福井へ戻りたいといったので、仕方なしに福井へ。夫が長男だったということもあり、福井に移住することについてわがままを言いづらかった。
- ・結婚を機に移住。住み始めたら楽しく、東京帰りたとは思わなくなった。
- ・東京で働いているときに夫に出会い、結婚した。最初は福井に行くつもりなかったが、コロナ禍で考えが変わり、小休憩のような気持ちで福井へ。福井へは全然行きたくなく、どうしようもないので来た感じ。

（（非正規雇用について）仕事内容と選んだ経緯等）

- ・（県外出身者）移住後に就活をした。ネットで探したが、経験のある業種の仕事がなく、楽しそうだと感じた会社に正社員として入社したものの、人が合わずに体調を崩し、休職。やめる決心がついたところで現職の求人に出会い、働くことにした。（最初の正社員としての就職について）いずれ子どもが欲しいため、貯金をしたかったこと、産休を取るなら就職してすぐというのはどうかという心理的負担もあり、少しでも早く正社員で働かねばと思っていた。
- ・（県外出身者）平日ずっと家にいるのは精神的につらいので、週3-4日の仕事を探したが、パチンコ屋、タクシー、飲食アルバイトの求人ばかりだった。今の仕事は仕事に見合った対価がもらえていると感じておらず、続ける気はない。
- ・（県内出身者）子を産んだ後1年ほど専業主婦をしていたが、知り合いの紹介で事務職へ。子どもがいるならパートがいいよねと会社に言われ、自身もそう思ったのでパートへ。いずれ正規に戻りたい気持ちもある一方、自由に働きたいとも思う。

（福井の印象）

- ・（県外出身者）同世代の働き方も多様で自由なところが良い。東京では劣等感を感じていたが、福井ではない。人間関係もいざこざしていない感じが楽。性別役割分担が、自身は楽と感じる。「女性」「若い」「移住者」という肩書で評価してもらえるので楽。
- ・（県外出身者）東京は、人は人、という感じで冷たさを感じつつ、居心地は良かった。福井移住後の最初の会社が閉鎖的で、より一層地元に戻りたくなった。休職中に福井を好きになる努力をしようと思って行動し、好きなどころも見つけた。世間狭いなど思うこともあるが、楽しんでる人もいるし、福井が頑張っていることも知っている。地元の友人が福井に来て喜んでくれると嬉しく思った。少しずつ福井人になっているのかも。

（収入面での不安）

- ・感じる。社会に出たいが、子どもができたとき、在宅の仕事がしたい。会社に属するのは向いていないので収入不安は自分で頑張るしかない。
- ・非正規の収入不安はあるが、正規で嫌なのは、時間の縛り。
- ・休んだ時の手当は何かならないか。現在小学生は1回500円だが、1か月500円とかにしてほしい。会社にも迷惑をかけていることが後ろめたい。昨年、子供3人が1人ずつインフルになり、3週間休んだことがあった。小さい企業では少ない人数で期日までに仕事を回すのが難しく、結局残業したり、手伝わってもらったりせざるを得ず申し訳なく思っている。制度で何とかできないものか。正規は責任があり、より休みにくいと思う。

○県外出身者（学生）

（福井での生活について）

- ・地域イベントボランティアに参加してみて、若者力、連携力がいいなと思った。
- ・車がないと生活しにくい。コミュニティは豊かと感じており、学生でも主体的に活動できる点は良い。
- ・最初に来た時にはあまりの田舎具合に絶望した。車を持ってからは生活の質が変わり、楽しもうと自分の気持ちを切り替えたら福井のいいところもたくさんわかってきた。
- ・電車に乗って出かけるようになってから田舎っぽさにはまって楽しくなってきた。

（将来に対する不安）

- ・今の（学生生活の）楽しさは将来の仕事に直結するものなのか不安。
- ・進路が不安。今学んでいる分野の仕事をずっとやっていくのか等。いろんなロールモデルを知りたい。親しか知らないと、選択肢がない。
- ・起業したいと思っているが、具体性がなく不安。
- ・やりたい仕事明確なので、あまり不安はない。

（福井に残る可能性）

- ・将来望む環境や職業があれば福井に残るかもしれない。
- ・仕事でなくても、挑戦することが許される環境なら残りたい。
- ・地元仲間の良い友人が多く残っているので、地元に戻る気持ちが強い。
- ・周りの先輩の就活を見ると、内定が出たところに行くという感じで、あまり地域にこだわりはないと思う。結局企業の良さ、めぐりあわせ次第。ローカルの良さは正直福井以外にもあると思う。
- ・出身の東京と、福井市がわからないので比較対象がなくわからない。田舎の良さはわかるけれど、それが福井の良さなのかわからない。

（学生としての生活の満足、不満）

- ・バスが不便。少ないし、来ないのかと思うほど遅れていることもあった。学生が週末集まる場所がない。
- ・地元には、駅前から商店街が伸びており、そこで地域の人との交流があり、間接的に地域に受け入れてもらえている感覚があった。ここでは、地域の人と交流する場所がなくてさみしい。学生はお金もないので、ただの公園でいいから、学生が集まれる場所が欲しい。
- ・学生・若者のコミュニティを応援してほしい。

○東京に移住した女性

（東京に移住した理由等）

- ・狭い福井で、同じようなことを繰り返すことがつまらないと思っていた。色々な人がいることで、色々な意見も聞きたいし、都会への憧れが強かった。
- ・大学生活を過ごした東京に慣れてしまったので、その生活を変えることができなかった。
- ・東京は交通網が発達しており、どこに行くにも、徒歩と公共交通機関で行けるから、その便利さがメリット。

- ・働きたい業種が東京などに集中しており、福井県内に選択肢が見つからなかった。
- ・一度福井県で就職したが、何年か働いてみて、仕事のスピード感などレベルの高いところで働きたくなり、東京で転職した。仕事で認められたいという承認欲求は強い。福井県に帰りたい気持ちもあるが、希望に叶う仕事がない。

(東京と福井のイメージについて)

- ・東京はみんな生き急いでいる感じがする。福井にしていると心のゆとりをもてる。
- ・東京は仕事に生きている人が多いが、福井は家庭が第一で、次に仕事というイメージ。成長したいというよりは、家庭で幸せを築くというイメージ。
- ・PR がもう少しほしい。東京で福井の話聞けたら嬉しいので、個人的には発信してほしいなと思う。福井は住んでいる人が幸せなので、そんなに発信しようとしていないのかなと感じている。
- ・福井県にいたら幸福だと分からないだろうなと思う。県外に出たからこそ、なにが幸せか分かった。心のゆとりがある。焦りがない。追い込まれていない。お金も、物価も違う。

(福井県の地域、集落について)

- ・新型コロナが流行し始めた時期くらいの、感染者の情報が伝わるスピードの速さに驚いた。
- ・子どものころはつながりの強さが嫌なこともあったが、大人になってみると、コミュニティの強さもいいと思う。
- ・東京の方が化粧なしの姿で出歩ける。福井県は自分は知らない人でも自分のことを知っている感じがあって、適当な格好で出歩けない。

○県外出身者（社会人）

(福井県に来た理由)

- ・福井県のイベントに参加した際、福井のもてなしに感動した。福井の方と結婚して福井県に移り住んだが、福井と結婚した感じ。気を張らないでいい雰囲気がいい。
- ・都会を離れて田舎で暮らしたいと思っていた。田舎で暮らすなら、働く場所も地域との関わりが欲しくて、農家で働こうと探していた中で、福井県と縁があって移住した。

(福井の特徴)

- ・人の会いやすさ、近さが良い。
- ・自分が頑張らなくても成り立つ生活感が良いと思った。都会は見栄を張りあって相手の人間性がわからない。福井は素でいられる感じが良い。
- ・福井は自然が多様で、日本の四季をしっかりと感じられる環境がいい。
- ・手仕事から派生した製造業が発展してきたからか、県民性は実直で、冗談が通じないところがある。純粹すぎるせいで、トラブルになりかねないとは思っている。
- ・移住者としてはいい環境だと感じるが、福井出身者からすると、キャラを変えにくい地域ではあると思う。都会だと人が多すぎてキャラ変しやすい。福井県は保守的ではあって、考えは変わりづらい。

- ・前例にないことを嫌がる面が強い。あと匿名性がない部分が県内の人には辛いかもしれない。移住者は住民に認識してもらうこと、認めてもらうことがうれしいので特段気にならない。
- ・ビジネスでも前例がないことは応援してもらいにくい。地域の行事に参加するなどして地域の方に信頼してもらおうと努力しているが、小規模でもスタートアップの支援をしてもらって、特に若者に対して、福井でも前例のないビジネスができるんだという前例を作るべき。
- ・福井では新しいものにはすぐお客さんが食いつくのに、新しいことを始めようとするとうまくいかないという矛盾がある。
- ・福井は圧倒的にクレームが少ない。良いも悪いも声が届かない。
- ・勤め仕事をしていて、職場で改善すべきと感じることがあって、同僚に話をするとうみんな共感してくれるが、声をあげる人がいなくて我慢している印象を受けた。どちらかという仕事はあくまで収入源という感じで、我慢してこなすみたいな考えの人が多くなった。
- ・手仕事などから派生した産業の中で、決まった仕事を黙々とこなすことを続けてきたメンタリティが根付いていると思う。
- ・(新しい考え、古い考えの良し悪しではなく)いろいろな考えの方をかき混ぜて、お互いの考えを受け入れあう仕組みを作るべき。長期ビジョンは良い考えがいっぱい書いてあるものの、届いてほしい人にこそ届いていない。

○副業・兼業者

- ・夢として、学校をつくりたいと思っているが、作り方が分からない。宿や学校など、行政の許可のハードルがとても高く感じる。
- ・幼稚園でプログラミングを教える機会があり、幼稚園に行くと、子どもに言うことを聞いてもらうために少し圧を感じる接し方をしている先生がいて、それが園側では良い先生ととされている感じがした。ただこどもが大人数だとしかたないと思う。ひとりひとりに優しく声をかけようと思うと少人数でないと無理だと思う。
- ・福井県は幸福度日本一というが、どう幸福なのか。実感があまりない。
- ・主観の幸せとは何か最近悩んでいる。三世代同居は女性の幸福度を下げるという話を聞き、シングルマザーは意外と幸福度高かったりする。何が幸せなのか、考えさせられる。
- ・出産にはタイムリミットがある。出産に対するモチベがあっても、ほかで自分がやりたいことを続けるうちにいつのまにか時間がたってリミットがきている人が多い。
- ・結婚したくないけど子どもはほしい。結婚しないと子どもを産んではいけない空気がある。認められる空気になるといい。(選択的シングル)
- ・興味のないことを知る機会がほしい。
- ・学生は親や先生など限られた相手から与えられた情報の中で将来の選択をしているため、興味のあるなしに関わらずいろんな情報が得られる仕組みが必要と感じる。
- ・興味のないことを知るには、偶発性(偶然の出会い)が重要。
- ・社会人経験が少ない若者が福井県で起業するには経済的支援もそうだが、ノウハウの部分で伴走支援やコーチングがないとうまくいかないと思う。

5 分野別意見交換会における主な意見

<産業・労働分野>

(1) 福井県の良いところ・伸ばしたいところ

(2) 福井県の改善すべきところ

- ・宿の稼働状況が2極化している。例年落ち込む6月でも稼働率5割を超える宿もあれば、数%の宿もある。しっかり投資してきたところは伸びている。
- ・今以上に ICT が進歩し、業務が簡略化されるようにしてほしい
- ・人手が不足しているので、1 日の中でスポットで就業者がいないようなところをカバーできる体制を整えたい

(3) 望ましい将来像

- ・国等に対しては、成長へのアクセルを分配へのアクセルと同程度に踏んでいただきたい。企業の成長をより促す施策、企業の負担をより軽減する施策も必要
- ・漁業協同組合としては、地産地消を考えていきたい。地元で流通する仕組みを考えたい。

(4) 将来像を実現するために必要なこと

- ・賃上げに向けて、取引価格の適正化が一層必要。付加価値を言語化して価格交渉力を磨くことも重要
- ・投資をする発想やビジネスモデルの変革など、経営者の意識改革が大事
- ・県内事業者が海外販路開拓を進めるには、事業者のレベルにあわせた事業やサポートが必要になるので、各関係機関が行う事業や支援内容などの情報共有が必要

<農林水産（加工品含む）分野>

(1) 福井県の良いところ・伸ばしたいところ

- ・多面的機能支払のおかげで非農家も用排水の掃除に出役するようになり、なんとか維持していきことができている。

(2) 福井県の改善すべきところ

- ・中山間では離農が加速。全面委託が多くなってきており、鳥獣害対策等の管理保全は以前と比べて多くなってきているが、農業をしていないからと断られる。
- ・静岡から、有機栽培で米作りをしたいと希望していた人が来て受け入れたが、現実には厳しく、生活できないと断念された。
- ・イノシシ被害でそば 20ha が全滅するなど、鳥獣害のせいで経営が成り立たない。
- ・集落営農組織の後継者不足が深刻

- ・田んぼを受託している担い手が鳥獣害対策をやっていて、負担が大きく、面積拡大の支障となっている。
- ・漁業者が減って単位漁協では経営が苦しくなっている。
- ・温暖化等の影響で良、不良の波が激しくなって安定経営が難しくなっている。
- ・マハタの出荷を増やしたいが、ウイルスの病気が懸念され、増産にブレーキがかかっている。病気にかかった魚だが食べても支障ないので有効に活用できる方策があれば良い。
- ・カラスの糞による景観の悪化や農作物の被害が甚大
- ・若狭地区は中山間地の割合が多く、農地の維持管理に苦勞している。
- ・ここ数年間で山際の耕作放棄地が増えた。小区画で鳥獣害被害も多く、担い手が受託を断るため、どんどん増えていく一方

(3) 望ましい将来像

- ・若狭まはたをPRしていきたい。イベントの他に何かできないか。商品化も前向きに検討していきたい。
- ・農業体験や漁業体験を通して、交流人口を増加させていきたい
- ・中山間地こそスマート農業を進めるべき。コスト削減できる。
- ・生産面から気候変動に対応できるような施策を入れたい。

(4) 将来像を実現するために必要なこと

- ・これから定年が65歳になると定年後就農者はほとんどいなくなるため、新規就農者への支援を手厚くし定着を図っていくべき。
- ・たくさんある施策の中から、まずは優先順位をつけることが必要。儲ければ活気も出るし人も集まる。儲かる仕組みを作ることが一番大事。
- ・少量多品種の福井県だからこそ、県内消費を確実に固めることが他県より大事なことになる。
- ・地域のビジネスモデルになるような取り組みやその地域のファンづくりにつながるような取り組みが大事。
- ・全国的にB材大型加工工場を建設したものの原木が集まらない事例があることから、航空レーザ計測データを活用して、資源量や施業地のデータを積み上げて生産規模を決めていくべき。
- ・川下がどのような材を求めているのかを確認したうえで、再生林の手法を検討してほしい。
- ・いきなりバイオマス燃料として燃焼するのではなく、まずは製材(マテリアル)として利用していく方向性を考えるべき。
- ・製材業を振興させるため、製材工場の規模拡大もしくは水平連携する施策やA材の活用について検討すべき。
- ・B材工場を本当に誘致すべきかどうか慎重に検討すべき。
- ・人材確保や離職防止を図る施策に加え、林業従事者の所得を向上すべき。
- ・自伐型林業の方が半Xを行うには、かなりの設備投資が必要なので、自伐型林業が集まった団体に対して支援すべき。

- ・幼少期の体験は、人格形成に大きな影響を与えることから、幼少期に森林体験できるような計画に取り入れてほしい。
- ・若手の担い手育成が必要
- ・近年の猛暑対策や豪雨対策が必要
- ・有機農業への転を進めるには販売先の確保が課題の一つであるが、学校給食で有機農産物を使用することが有効
- ・JA、県、市町が一体的に農地や集落の維持に向けて支援していく必要がある。
- ・生産量が少ないと価格交渉力が弱い。ストックを多く持つことで価格形成していくことができる。(価格転嫁には生産量が必要)
- ・餌料が高騰しており、魚価に反映する必要がある。
- ・嶺南地域にも園芸カレッジをつくるなど、嶺南で新規就農者が増える仕組みをつくってほしい。
- ・稲作が中心であるが、単価が安く、儲からないため、商品の質向上や販路の開拓などで高単価化させていきたい
- ・人口減少による地域コミュニティのあり方が変わっていくことを前提に、移住・定住等に取り組んでいく必要があるが、上手く進んでいないので、解決策を提案してほしい

<まちづくり・観光・文化・スポーツ・交通分野>

(1) 福井県の良いところ・伸ばしたいところ

- ・行き先はレインボーラインが多い。
- ・農業にも着目している(冬季は酒造り繁忙期だが、春・秋の期間)
- ・行き先は恐竜博物館、永平寺、東尋坊など嶺北が多い。
- ・開業後、観光客は増えている。特にあわら温泉は良くなっている。
- ・青年関係団体の横のつながりを復活させたいと考えている。そのきっかけとしてサウナをテーマに活動を行ってきた。
- ・恐竜ルームに改修した部屋は稼働が2倍になり、1.5倍の単価でも埋まっている。
- ・民宿について二次交通や民宿のイメージの払拭が課題であるが、「船盛」は宿泊者に好評である。

(2) 福井県の改善すべきところ

- ・運転士不足により路線バスは今後厳しい状況は続くと思う
- ・日帰り利用が多い
- ・嶺南まで行く人は1割程度、三方五湖襟が多い。
- ・競技人口・指導者が減少している。プライベート時間を重視する若者世代にいかにか引き継いでいくかが課題。
- ・施設予約が取りづらい状況にある。
- ・競技人口の減少、特に小学生、中学生。中学部活動の社会体育委託の流れは、理解するが、競技団体単位で中学校の顧問との話し合いや個人的な関係での連携には、限度がある

- ・スポーツ指導者の高齢化が進んでいる。
- ・総合型クラブとの連携など、中学校部活動地域移行に伴い、子どもたちのスポーツ環境が大きく変化している。
- ・指導者、ボランティアが不足しており、後継者問題もある
- ・新幹線開業後の県内飲食店について、期待していたほどお客が増えていないので、人材確保に業界が消極的になっている。
- ・福井駅周辺の新店舗の勢いもずいぶん薄らいだ
- ・人口減少による地域への影響を踏まえ、自治組織や地域コミュニティの単位としての公民館のあり方の議論を喚起したいが、行政主導で進めることが難しい
- ・指導者派遣の事業について県民にどの程度周知されているのか疑問
- ・JSPO-ACP(子どもたちに運動の楽しさを伝える活動)の認知が低い。保育・教育現場や総合型クラブ等へ活動を広げていくことが子どもたちの運動不足解消につながる。
- ・北陸新幹線福井・敦賀開業後、宿泊施設の宿泊者数に濃淡は出ている。
- ・どこのホテルも人手不足しており、100%客室を稼働できない。
- ・開業後観光客の宿泊者が増えている。一方、人件費が上がり、人手が不足しており、休館日を増やしている。

(3) 望ましい将来像

- ・新幹線が来てから業績がいいが、日本の人口が減る中でインバウンドは大切
- ・商業施設やスポーツジム、テーマパークなど、近くに楽しい施設が増えるとよい
- ・空き家をリノベーションして家やホテルに利用し、地元の人を呼び込めるとよい
- ・いろんな場所でバリアフリー化が進んでほしい
- ・公共交通機関の利用待ち時間に、友達と話して過ごせる場所が充実されるとよい
- ・点字ブロックの設置範囲が広がってほしい
- ・人口減少により、従来のインフラを維持できないことを踏まえ、どのような市のあり方がよいか、撤退戦略を含めて、将来設計をしっかりと描いていきたい
- ・人口減少による将来的な、地域コミュニティ、社会インフラへの影響を住民に理解してもらい、課題意識を住民と共通認識化したい
- ・卓球台など常時設置されている場所があれば気軽にスポーツに親しめる。

(4) 将来像を実現するために必要なこと

- ・展示が変わったという印象を与える目玉となる更新が必要
- ・生体展示は魅力的。今の生体展示を拡充してはどうか
- ・自然観察指導員の会や野鳥の会などのコーナーを設けて、定期的な更新
- ・来館者を増やす展示を目指すなら、生体展示、体験コーナー、癒し空間の創出
- ・上記について具体的には、冬の野鳥レストランの充実、昆虫展示館の新設、シアタールームの新設などが考えられる
- ・永平寺や東尋坊など観光地への観光利用を促進に努める
- ・適正なモビリティ(乗合タクシー、デマンド)への転換を県内全域で検討してほしい
- ・小浜線の利便性向上のため、ダイヤの見直しや交通系 IC 導入の検討を進めたい

- ・住民の移動や観光客の周遊のため、市町を跨ぐ移動手段の充実を図りたい
- ・若者によるイベントを開催し、人を呼び込むことを企画していきたい。
- ・各団体のコネクションを活かし、他都道府県イベントで福井県、嶺南地域の出向宣伝を行ってきたい。
- ・観光列車との連携は魅力的であり、ロゴの活用など行いたい
- ・インフルエンサーなど発信力のある方と地元料理人や農家を巡る動画を作成し、情報発信するのはどうか。
- ・情熱のある若い料理人を応援した方がいい。
- ・スポーツ界の魅力をマスメディアを活用し広く発信していくことが必要。
- ・プロスポーツばかり優先されず高体連や中体連の大会で使用できる機会を増やしてほしい。
- ・イベント時に一時的な広報をするのではなく、公民館など身近な場所で継続的に体を動かす機会を作り、広く周知すると良い。
- ・競技力強化のため、練習場所の確保と費用負担が課題。
- ・運営する側を育てる観点が必要ではないか。また、協会単独での活動は制約が多いが、他団体と連携して、活動の幅を広げることが大切。
- ・市町スポーツ推進員やパラスポーツ指導員と連携し、横のつながりを強化することが大切。
- ・また、活動が周知されにくい状況にあり、新聞などのマスコミを使って体験会などの情報を定期的に広く知らせる機会を持てると良い。
- ・就学前の運動経験が重要であるため、未就学児を受け入れる団への支援があると良い。
- ・身体、知的、精神の3障がいと一緒に楽しめるスポーツ種目があると良い
- ・スポーツ用具が高価なため始めたくても難しい場合がある。レンタルできる仕組みがあると良い
- ・障がい者の特性を理解した上で寄り添った形でサポートできるようボランティア養成をしてほしい
- ・福井駅前における恐竜を活かした販わいづくりについて、熱心な企業に声掛けをしてほしい。
- ・大河ドラマ「光る君へ」で安倍晴明が注目されているので、おおい町の暦会館、天社土御門神道と陰陽道のPRができるのではないかな。
- ・大河ドラマ「べらぼう」にあわせて杉田玄白を打ち出せる。杉田玄白の『養生七不可』は日本初のウエルネス。暦会館で学べる二十四節気や七十二侯の考えをウエルネスに活用し、そのエピソードと食材で料理を提供できたら非常におもしろい。
- ・全国的に光の演出を用いたコンテンツが成功している。恐竜博物館や周辺において、光の演出を行うことでさらなる来館者の増加が見込めるのではないかな。
- ・人口減少による地域への影響を住民が危機感を持てるレベルで伝え、地域コミュニティを中心とした自治を促進したい
- ・新幹線あわら駅からの2次交通について、嶺北一体で考えるべき
- ・若い世代のパラアスリート発掘のためには医療機関や教育機関との連携が重要である
- ・パラ陸上の魅力をもって発信すべき。健常者と障がい者の交流を深める機会をもっと増やすことが重要

- ・新規選手の獲得や県障がい者スポーツ大会の参加促進を図るため、県校長会に協力依頼するなど、行政間の連携を図るべき
- ・Juratic が10年経過し、そろそろテコ入れをしないと廃れていく。
- ・例えば、大企業とのコラボは効果的。
- ・福井産の恐竜が3体から6体が増えており、新たなキャラクターを作るのも良い。
- ・5月～10月までの閑散期の利活用として、映画等のロケを誘致できないか。
- ・これまで国立淡路青少年交流の家がロケ地として活用されていると聞いているので、同様に活用できるよう制作会社等にPRしてほしい。
- ・NHK 大河ドラマに本県ゆかりの人物を主人公とし、本県を舞台としたドラマを誘致したい
- ・大河チームや関係部署に伝える
- ・観光は超レッドオーシャンで、資金力、スケールが求められる
- ・観光戦略が総花的になるのは理解できるが、企業としてはスポットで成果を出すことが必要
- ・道路の修繕などは、地元企業に任せるなど早期対応ができる体制をお願いしたい
- ・橋梁など道路構造物のメンテナンスがますます重要。
- ・道路改良は、ネットワークとして機能するよう長期的な観点から構想や計画を立てていく必要がある。

<結婚・子育て、県民活躍分野>

(1) 福井県の良いところ・伸ばしたいところ

- ・屋内の広いところで子どもが遊べる施設ができて大変ありがたい。親同士の交流の場にもなる
- ・福井県は、子どもの発達についての相談が気軽に保健師等にできる環境となっていることが良い

(2) 福井県の改善すべきところ

- ・人口減少対策として、出生率を高めたいが、特に男性を中心に、そもそも結婚する者が少ない
- ・親子の関係性とか退所後どこに住むかとか、ある意味全部取っ払って、「何もなかったとして何をしたい」って聞いてくれる人っていない。意見表明支援員には期待したい。

(3) 望ましい将来像

- ・家族だったら距離が近すぎたり、遠すぎることもある。程よい距離感のコミュニティーがあったら良い
- ・顔をつき合わせて直接話をするのが地域づくりにつながる
- ・子育ての喜びや毎日のいきがいなど、こどもを通して大人自身が学ぶようなポジティブイメージの発信が大事
- ・社会とのつながりが薄れている引きこもり(65歳未満が対象のイメージ)に対して、在宅やお試的に雇用してもらええる場を提供したい

- ・施設を退所した子どもたちは社会に出て誰かに頼ることも遠慮してしまうことがある。相談していいんだ、困っていてもいいんだということを伝えることも重要
- ・施設の退所直後の自立支援があることはありがたい。困りことは突然起こったりもするので、すぐに相談できる場所があると心強い。
- ・同じような境遇の子どもたちが集える場や支援者側に意見を言える場があるとよい。
- ・子どもの意見表明の支援は、独立性が担保された団体が行うことで頼りやすくなる。
- ・誰かがいて欲しい人もいれば、誰もいないほうが良い人もいる。同年代がいい人もいれば年が離れている方が話しやすい人もいるなど、人によって違う。色々なニーズに対して対応できる選択肢を用意するということが大事だと思う
- ・安心して入れる場所、否定しない人や頼れる人がいる場所、話しかけてくれる人がいる場所があると良い

(4) 将来像を実現するために必要なこと

- ・外国人が暮らしやすい社会の実現や県民との交流において、日本人県民側も「やさしい日本語」を使うなどの対応が必要
- ・地域の人材が枯渇する中、どのように人を出していくかを議論する必要がある
- ・縦割り行政をやめ、相談窓口を一本化していくことが大切
- ・施策の周知については、届けるべき人にしっかり届けることが大事
- ・女性活躍だけでなく男性の家庭進出支援、啓発活動もしていくべき
- ・未婚者やこれから子どもをもとうとしている人に、子育て支援に関するボランティアに関わっていただくなど、子育ての楽しさを味わってもらおうと良い
- ・現状、検診のたびに書類を書かなければならないので、子どもの発達等を入力して行政と共有できるアプリがあるとよい
- ・誰かにとっての近い場所は、誰かにとっての遠い場所にもなりえるため、キャンピングカーやキッチンカーみたいに空間ごと動く居場所があると良い(本、イス、相談者)自分の役割や、席があると自分は必要とされていると実感できる
- ・既存道路を有効活用し通学路の安全確保を図ってほしい

<医療・健康・介護・福祉分野>

(1) 福井県の良いところ・伸ばしたいところ

(2) 福井県の改善すべきところ

- ・犯罪をした人の更生に当たっては、住居確保の支援が不可欠。身元保証人の不在や、家賃滞納・近隣住民とのトラブルへの恐れにより、賃貸住宅への入居が困難になっている。

(3) 望ましい将来像

- ・避難所に備蓄すべきもので必要な物は、猫用のケージ、キャリー、リード。首輪は必須。

(4) 将来像を実現するために必要なこと

- ・県と関係機関との連携を深め、出所者を円滑に福祉サービスへつなげるための情報共有の強化が必要。
- ・同行避難の啓発チラシについて、動物病院での配布のほか、公民館にも置いてはどうか。ペットを飼っていない人も知るきっかけになる。
- ・動物愛護推進員の有資格者要件について、愛玩動物看護師も国家資格となったので加えて欲しい。
- ・各地域の動物愛護推進員の交流を図るために、定期的に意見交換会を開催して欲しい

<防災・環境分野>

(1) 福井県の良いところ・伸ばしたいところ

(2) 福井県の改善すべきところ

- ・鳥獣害については、林業の衰退など社会の変容とともに問題化した側面もあるので、今すぐに改善することは難しく長期的な取り組みが求められる。

(3) 望ましい将来像

- ・脱炭素に関する環境教育を充実させるとよい。
- ・運輸部門の公共交通利用促進による削減目標△1千トンは消極的だと思うので、県においてもより電車やバス、公共交通の利用を促進してほしい。
- ・再生可能エネルギーの導入促進について、補助金以外にも振興策があるとよい。

(4) 将来像を実現するために必要なこと

- ・鉄道はさまざまな輸送機関の中で最も環境負荷が少ない手段なので、モーダルシフトを促す施策を県でも検討するとよい。
- ・ZEH 住宅について県独自基準を作るのは良いことだが、基準が厳しくなると普及の面ではマイナスなので補助金等の対策を検討するとよい。
- ・気候変動適応について、認知度や関心のある事など意識調査に努めるとともに普及を進めてほしい。
- ・次世代自動車への転換も重要であるが、自動車の利用自体を減らしていく取組も重要であり、ハピライン等の公共交通機関を使いやすくして多くの県民に利用してもらえるような施策を検討するとよい。
- ・外来生物を一方向的に悪者扱いするのではなく、環境教育の中で人間の利便性のために持ち込まれた種もいること等も教えながら駆除を考えていくようにしてほしい。
- ・食品ロス対策は、企業に対してまだまだ働きかける余地があると思うので、ヒアリング等を行いフードドライブ等様々な対策を推進してほしい。

<教育分野>

(1) 福井県の良いところ・伸ばしたいところ

(2) 福井県の改善すべきところ

- ・公園でボール遊びが禁止されるなど、子どもたちが気軽に遊べる場所が減っている
- ・部活動を指導する人材が不足

(3) 望ましい将来像

- ・SDGsについて、楽しみながら学べ、協力することが大切だと思った。
- ・インターネットフィルタリングの意義や必要性を保護者や子ども自身を理解させることが重要。
- ・小学生が多くの時間をインターネットに費やしている。学校生活以外の時間にも、インターネット以外のものと触れ合う機会を確保していくことが課題。

(4) 将来像を実現するために必要なこと

- ・若者が減っていく中、農業従事者が減らないように授業の中で農業をもっと学べるようにすべき
- ・地元の高校生やその保護者を対象に、都市部、敦賀どちらで就労するか、などの選択に応じた将来イメージを具体的に伝え、都市部でホワイトカラー労働者となることを是とする価値観を変えていき、敦賀に残る選択を促したい
- ・インターネットを安全に楽しく使うためにどうすべきか世の中が転換している中、大人の意識改革も必要。親子参加の啓発イベントについて、広く周知し参加して欲しい
- ・優良図書について、各市町の小中学校に現物を届けられるような対応を検討して欲しい